

## ◆ 欧州特許分類 CPC

- ※1 ○：2000シリーズ含めて可，△：2000シリーズ除き可，▲：前方一致検索可
- ※2 C-Setsとは、CPCの組合せで技術を表現する分類。  
○：同一ライクで検索可，△：同一ライクは不可，▲：限定された国・年代で可
- ※3 ファミリ中のいずれかの C-Set フィールドにこれらの CPC が含まれていればよい"という演算になる事に注意
- ※4 DOCDB：更新型、US公報：蓄積型（公報ごとに蓄積されたCPCを一括で検索できる）
- ※5 結果的には階層検索するが、推奨されていない

## DB毎に出来ることが違う

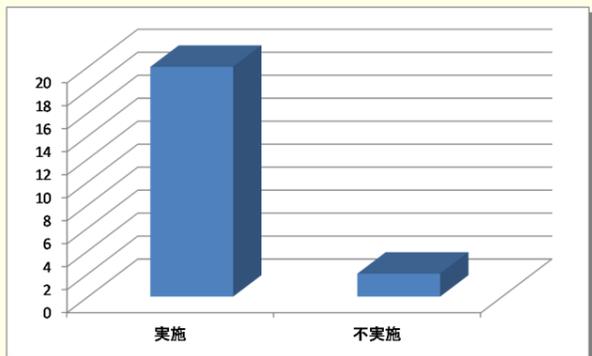
	Espace net	STN (INPAFA MDB)	JP-NET®	PatBase®	PatentS QUARE®	Sharesearch®	Thomson Innovation®	LexisNexis® TotalPatent™	Orbit	HYPAT-i
階層化検索 ※1	○	○	▲	△	○	○	▲	△※5	▲	○
C-Sets検索 ※2	—	○※3	△	—	—	—	○	—	—	—
更新の形態	更新型	更新型	蓄積型	蓄積型	※4	更新型	更新型	更新型	蓄積型	?

## ◆ インドの特許状況

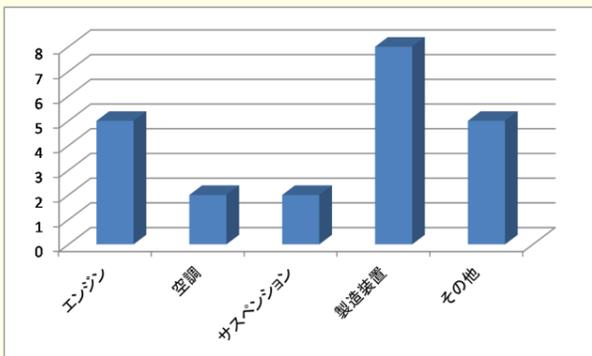
## 出願戦略の分析が可能

インドでは、登録特許の実施状況を「毎年」特許庁へ提出が必要  
(インド特許法146条 Form27の提出)

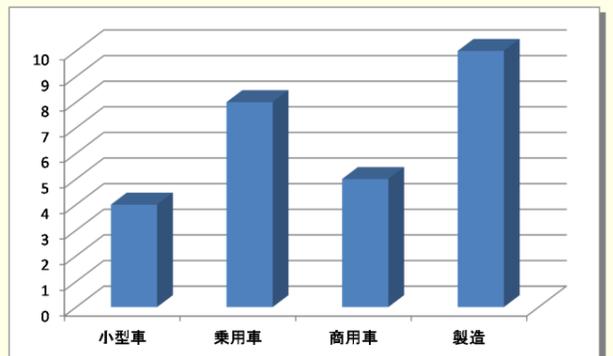
### TATAのForm27分析事例



実施が圧倒的に多い  
→実施が確実なものしか出願しない



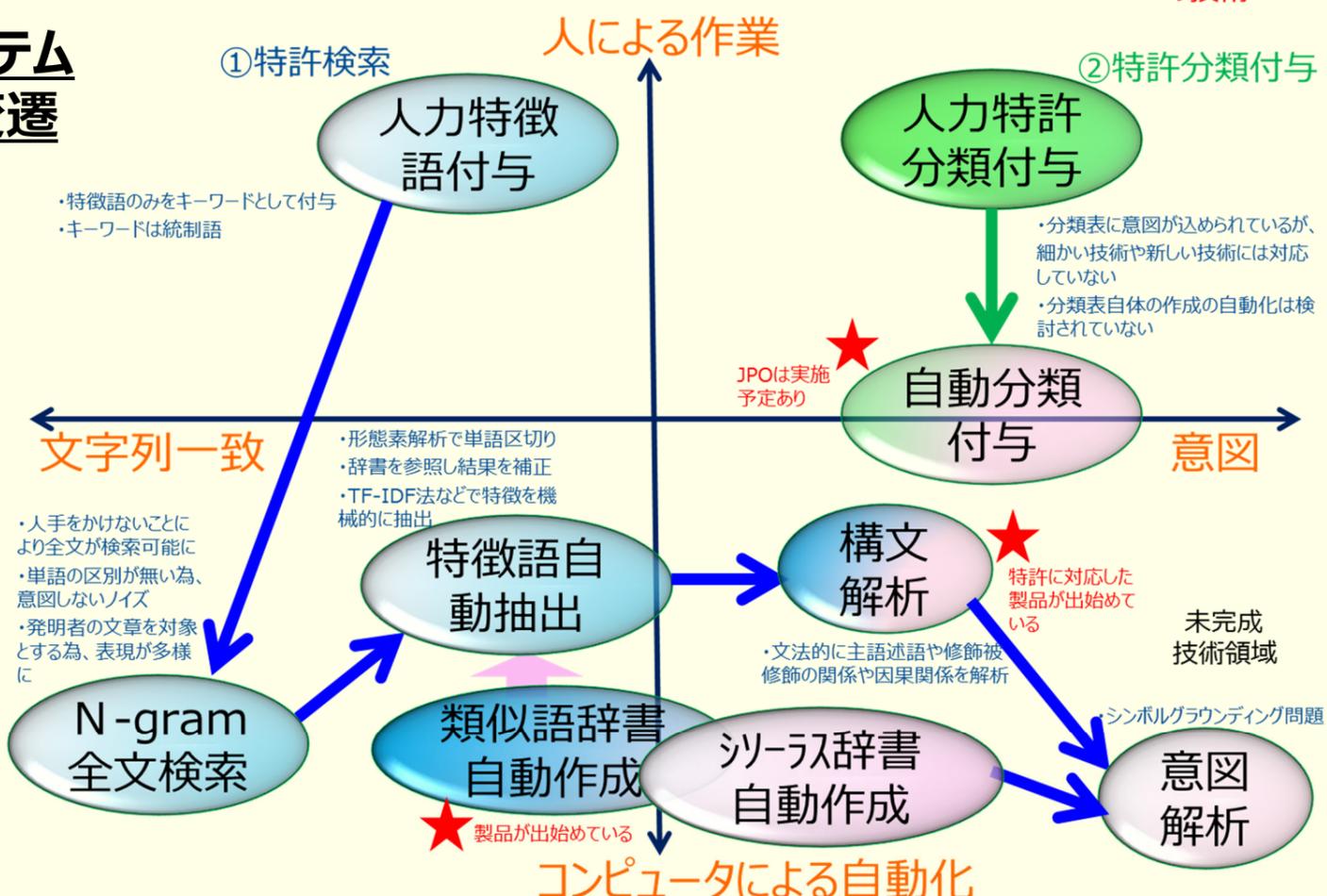
生産技術に注力、エンジンに強み



生産技術に注力、商用車に注力  
小型車中心という訳でもない

## ◆ 新しい検索手法の探求

### 検索システム技術の変遷



・特徴語のみをキーワードとして付与  
・キーワードは統制語

・人手をかけないことにより全文が検索可能に  
・単語の区別が無い為、意図しないノイズ  
・発明者の文章を対象とする為、表現が多様に

・形態素解析で単語区切り  
・辞書を参照し結果を補正  
・TF-IDF法などで特徴を機械的に抽出

・分類表に意図が込められているが、細かい技術や新しい技術には対応していない  
・分類表自体の作成の自動化は検討されていない

・文法的に主語述語や修飾被修飾の関係や因果関係を解析

・シンボルグラウンディング問題

